

2011 年度 活動成果報告

(2012 年 5 月 9 日作成)

プロジェクト名	L.P.Ⅱ リファインニング建築開発プロジェクト研究	リーダー：青木 茂
プロジェクト 全体計画	<p>プロジェクト実施ベース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的なストック活用を通して汎用的な技術体系を構築する。 <p>教育的視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能の伝承に寄与する設計・施工監理方法を構築する。 <p>雇用の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リファインニング建築は、新築に比べ人件費の工事費に占める割合が高いことから、雇用創出プロジェクトとして位置づけられる。 	
メンバー構成	<p>○青木 茂 [教授/建築設計]</p> <p>北山 和宏 [教授/建築構造学]</p> <p>高木 次郎 [准教授/建築構造学]</p> <p>見波 進 [助教/建築構造学]</p> <p>門脇 耕三 [助教/建築構法]</p> <p>猪熊 純 [助教/建築設計]</p> <p>雨宮 知彦 [特任助教/建築設計]</p> <p>櫻井 理樹 [客任研究員/東京都住宅供給公社より出向]</p>	
2011 年度の成果	<p>LPⅡの基幹プロジェクトとして、東京都住宅供給公社との共同研究である烏山団地の住棟改善モデル設計の監修業務を進め、次年度以降のリファインニング建築体系の制作および報告書作成のための基盤作成をした。</p> <p>実務の監修と並行し、烏山団地を題材とした「リファインニング建築塾」をLPⅡ主催で開催し、公募によって選定された社会人受講者にリファインニング建築の技術指導を行った。塾の成果は2012年2月9日の研究発表会で発表した。</p> <p>疲弊した地方都市をリファインニングすることをテーマに、3つの地方都市のリサーチとリファインニング提案をまとめ、2012年2月14日の研究発表会で発表した。発表内容をもとに、『RIFINING CITY × SMART CITY つかれたまちはこう変わる。もっと長生きできる』という本にまとめ、3月末に発行した。</p> <p>タイにある、現在使われていない木造の精米所の調査を行い、宿泊施設へのリファインニング構想をまとめ、次年度以降の基盤作成をした。</p>	

研究成果リスト

論文・口頭発表	<ul style="list-style-type: none"> ・2011. 8.23 ストックの利用実態から「利用の時代」を考えるー市場性を踏まえたリファインナー、日本建築学会大会 ・2011. 9.28 「浜松サーラ」リファインニングプロジェクト、UIA 東京大会 ・2011. 9.20 「環境負荷低減に資する都市建築ストック活用型社会の構築技術」研究会発表 ・2012.2.9 LPⅠ+Ⅱ 合同発表会 ・2012.2.14 LPⅡ+Ⅲ 合同発表会
刊行物	『RIFINING CITY × SMART CITY つかれたまちはこう変わる。もっと長生きできる』2012年3月発行
講習会等 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<p>1. 2011. 9.20 「環境負荷低減に資する都市建築ストック活用型社会の構築技術」研究会発表 (都庁第2庁舎ホール) 参加者数 約220名</p> <p>2. 2012.2.9 LPⅠ+2 合同発表会 (大会議室) 参加者数 約50名</p> <p>3. 2012.2.14 LPⅡ+3 合同発表会 (会議室) 参加者数 約50名</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・『RIFINING CITY × SMART CITY』の調査研究では、名古屋の調査を椋山女学園大学、久留米の調査を北九州市立大学と共同で実施した。 ・タイの精米所調査研究を、椋山女学園大学、国士舘大学と共同で実施した。 ・大連理工大学の客員教授に就任したことにより、大学間のより緊密な相互関係を築くため、大連理工大学を上野淳副学長とともに訪問し、大連理工大学副学長と交流やシンポジウムでの講演を通じて親睦を深めた。